

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【善前小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	さいたま市学習状況調査の結果では、国語、算数、社会、理科の各教科における知識・技能に関する問題で、全学年において改善がみられた。また、個人差も大きい。ことから、個別に必要な支援を講じながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確実に図っていくことが不可欠である。「ドリルパーク」等のICTを有効に活用し、個別に蓄積されたデータを効果的に活かしていきたい。そして、習熟となる基礎・基本の時間を活用して、漢字や計算のドリルで反復練習を実施していくとともに、国語における文の中的主語と述語の関係の理解、社会の地図記号に関する知識など、ドリルパークを活用し、各教科の既習事項を満遍なく復習できる場を計画的かつ継続的に設定し、全学年で重点的に取り組み、令和8年度のさいたま市学習状況調査等で検証していきたい。
思考・判断・表現	国語におけるさいたま市学習状況調査の結果で、「読むこと」の領域において、異集団比較または同集団比較にて、ほぼ全ての学年で、昨年度から数値が下がってしまった。目的を意識して中心となる語や文を見つけ文章を読み取り、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけて読んだりすることに課題がみられた。この点は、算数における、示された場面において状況から正しく立式したり、複数の数量から必要な数量を選んだり立式したりすることも課題になっていることと関連していることが考えられる。そのため、各教科で、グラフや表などの資料を活用しながら自分の考えをまとめたり、自分で書いたり、一人一台端末で打ち込んだりした文章を自分で推敲し、その後仲間と見合ったりする活動も重視しながら、思考力・判断力・表現力を伸ばしていきたい。

	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 算数の基礎的・基本的な計算力に大きな課題がある。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な計算の定着を図れるように、反復練習する時間の設定が不十分である。	⇒ 朝学習となる週一度の「基礎・基本」の時間で、「ドリルパーク」等を活用し、既習の基礎的・基本的な計算問題を全学年で重点的かつ継続的に取り組む。【通年・月に2～3回程度】 また、「書き込み式ドリル」を活用し、家庭学習においても基礎的・基本的な計算問題を全学年で重点的かつ継続的に取り組む。【通年・週に2回程度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 相手や目的に応じて敬体と常体を使い分けたり、どのような図表を用いれば効果的かを考えたりすることに課題がある。そして、個人差が大きくなる。 <指導上の課題> 相手や目的を意識して考えを書いたり、グラフや表などの資料を活用して自身の意見を書いたりする時間の設定が不十分である。	⇒ カリキュラムデザインマップを活用しながら、全学年において教科横断的な視点で大切に、グラフや表などの資料を活用しながら自分の考えをまとめたり、相手や目的を常に意識しながら自分の意見や考え、思いなどを書いたりする学習を充実させる。【通年・週に2回程度】 さらに、書いたり、一人一台端末で打ち込んだりした文章を自分で推敲し、その後仲間と見合う活動も積極的に設定する。【通年・月に2回程度】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	月に2回、朝の時間「基礎・基本」で、ドリルパークや計算ドリル等を活用し、基礎的・基本的な計算問題を全学年で重点的かつ継続的に取り組んだ。その結果、本年度のさいたま市学習状況調査における算数「数と計算」の領域で、同一集団経年比較において、3学年中2学年、さらに異集団経年比較では4学年中3学年、昨年度よりも結果数値を上げることができた。また、全国学力・学習状況調査の結果から、国語で「漢字」に課題がみられたが、さいたま市学習状況調査において漢字と同領域「言葉の特徴や使い方の事項」の異集団比較及び同集団比較において、共に昨年度から数値を上昇させることのできた学年もあった。
思考・判断・表現	A	各教科で、グラフや表などの資料を活用しながら自分の考えをまとめたり、相手や目的を常に意識しながら自身の意見や考え、思いなどを書いたりする学習を実施することができた。その結果、本年度のさいたま市学習状況調査の国語における「書くこと」の領域では、同一集団経年比較及び異集団経年比較で、昨年度よりも複数の学年で結果数値を上げることができた。また、さいたま市学習状況調査での生活習慣における調査「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか」の質問項目においては、肯定的な回答の割合が80%以上となった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、漢字を文中で正しく使うこと、算数では、数直線上に示された数を分数にしたり、はかりの目盛りを正しく読んだりすることに課題が残った。そして、理科では、金属の性質や顕微鏡の操作に関する理解に課題がある児童がみられた。習得した知識・技能の活用や、深い理解を伴う知識の習得ができていないことが考えられる。	
思考・判断・表現	国語の「読むこと」領域において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかの問題で、課題がみられた。さらに、無解答率も高かった。また、図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する算数の問題や、差異点や共通点を見出し表現する理科の問題においても、大きな課題がみられた。引き続き、グラフや表などの資料を活用しながら自分の考えをまとめたり、相手や目的を常に意識しながら実際に自身の意見や考え、思いなどを書いたりする等といった、教科同士の関連を意識した授業を日々、展開していく必要がある。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	昨年度課題がみられた算数の「数と計算」領域では、類似問題の経年での比較より、全体的に平均正答率の上昇がみられた。一方、国語の「言葉の特徴や使い方の事項」では、課題が多岐にみられた。特に、漢字を文中で正しく使うことや、文の中の修飾と被修飾の関係の理解に関する問題の正答率が低かった。また、社会科を文の地図記号に関する理解や、理科における方位磁針の使い方、電気を通す物や磁石につく物についての理解にも課題が残った。このことから、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確実に図る必要がある。さらに、日頃の授業で、既習内容を丁寧に想起する場面を設定していく必要がある。	
思考・判断・表現	国語では、「話す・聞く」の領域において、異集団比較または同集団比較にて、ほぼ全学年で、昨年度から数値が下がってしまった。相手に伝えるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えたり、目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめたりすることに大きな課題がみられた。また、算数では、示された場面において、状況から正しく立式したり、複数の数量から必要な数量を選んだり立式したりすることに課題が残った。教科横断的な視点も大切にしながら、各教科で、既習事項や日常生活における様々な現象などを根拠として示したり、関連付けたりしながら、自分の考えを仲間へ分かりやすく説明する場面を多く設定していきたい。そして、自分と相手の話を比較したり、問題場面を具体的にイメージしたりしながら、自身の意見や考え、思いなどを伝える学習を重ねていきたい。	

③	評価(※)	中間期報告 学力向上策の実施状況	中間期見直し 学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝学習となる週一度の「基礎・基本」の時間や家庭学習の中で、「ドリルパーク」や計算ドリルを活用して、継続的に、既習の基礎的・基本的な計算問題に取り組むことができた。さらに、計算ドリルに書き込みを添えて、計算問題の反復練習にも力を入れていることができた。	全国学力・学習状況調査の結果から、国語で課題の多かった「漢字」にも重点を置くとともに、国語や算数だけではなく、理科や社会に関する基礎的・基本的な問題にも取り組めるように、「ドリルパーク」等のICTを活用し、個別最適な問題練習が繰り返してできるようにする。【単元最後を目標に、月2回程度の実施】
思考・判断・表現	B	各教科で、グラフや表などの資料を活用しながら自分の考えをまとめたり、相手や目的を常に意識しながら自身の意見や考え、思いなどを書いたりする学習を実施することができた。また、書いたり、学習後で打ち込んだりした文章を自分で推敲し、その後仲間と見合う活動も多くの学年・学級で設定することができた。	カリキュラムデザインマップを活用しきれていないため、マップを有効に活用し、全学年において教科横断的な視点をより大切に授業を展開していく。その上で、グラフや表などの資料を活用しながら自分の考えをまとめたり、相手や目的を常に意識しながら自分の意見や考え、思いなどを書いたりする学習を充実させる。【通年・週に2回程度】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)